



今回このテーマをいただき、自分の中で大切にしている『集団』・『個々』についてお話をさせていただきます。

子どもたちにとって、保育園幼稚園等は初めての集団生活です。ここで温かく受け入れてくれる保育教諭との信頼関係を基盤に自分の中に安心感を持って、様々なことに取り組んでいける力をつけていけるようになると思います。また、友だちとの関わりも増え、その関わりの中で様々な自己主張のぶつかり合いを経験しながら、友だちと一緒にいる楽しさや充実感を味わい、皆で生活を作り出していく喜びを感じることができるようになっていくと思っています。

その年その年で子どもたちの姿、カラーが全く違います。同じ年齢、同じ月齢、同じ誕生日であっても一人一人違う、一人一人の興味や発達、運動能力、集中力も違います。その子に合った教育保育を行う事の難しさによく気付かされることがあります。その中で一番に考えるのが、今の子どもたちに必要なこと。今年度の子どもたちの姿からは、どの活動にも消極的で自信もなく、運動遊びをしていると『出来ないもん』と、跳び箱を背に砂場に逃げていく子が多くいました。一つ一つの活動には各々目的、目標がありますが、「何でしないといけないの?」という気持ちが伝わってきました。子どもたちにたくさんの目標を持たせるのではなく、まずは『運動会に向けて』の取り組みを始めました。『みんな渡り棒を渡れるようになる!』と一つ目標を作りました。一斉の活動では集中力もないので、チーム毎に5分交代または、一回したらいいよ!という日もありました。継続して続けることで、今日は2本いけた! いつもより長くぶら下がれた! と個々に違いますが、昨日とは違う自分を感じることが出来てきた子どもたち。

『〇〇くんはできた! すごいなー』と思うだけでなく、『〇〇くんみたいにできるかな?』と憧れを持つ姿もありました。また『〇〇ちゃん頑張っ!』と頑張る友だちの姿を応援できる気持ちも育っていました。個々の目標は違いましたが、一つの大きな目標に向かって進んでいくことで自信がない…ではなく、『やってみよう!』と前向きな姿に変わってきたように思います。

取り組みを進め、運動会では落ちてしまうこともあったけど、そこで止めるのではなく、初めからもう一度挑戦する『諦めない』気持ち、姿を見ることが出来ました。目標としていた、みんな渡り切る! を達成することができました。この経験から、周りの友だちを意識する気持ちも育ってきました。

各々性格も違います。その子に合った声掛けや援助を見極め、自信に繋げていけるよう関わっていくことを大切にしています。その取り組みの中で一人ひとりが自信を持つことができ、現在では困った友だちを助けてあげる姿や、友だちと一緒にやってみようとする姿や、友だちのように出来るようになりたいなど、友だちの存在を意識することができ、一つのりす組という集団の中で個々の力を発揮できる場面が増えてきているように思います。

どうやって子どもたちの興味を引き、期待をもち意欲的に取り組むことの出来る環境を作るか。今の子どもたちの何を育てていくことが必要なのかを見極めることの大切さに気付かされる場面は多くあります。個々が自信を持ち生活を送れる中で、友だちや異年齢児との関わりを大切にしその経験を通して自己主張したり仲直りをしたり、我慢したり、時には喧嘩したりする中で相手にも思いがあることが分かり、次第にお互いを認め合える関係作りをしていきたいと思っています。

一人ひとりに寄り添い、その子に合った援助をし成長の援助ができる環境が個々の成長に繋げることができ、自分自身に自信が持てることで自分の存在、また安心できる環境に繋がっていくことが出来るのではないかと思います。人が感じることは、十人十色。その中で自信を持つ事ができる経験作りを今後も取り組んでいこうと思います。

一人ひとりが成長することで周りの様子、姿が変わってくることを実感しています。その中で自分にできることが探せるように、目標を持って取り組むことができるよう関わっていきたくと思っています。

